T-PAS®で実感する体験型研修の実際

独立行政法人国立病院機構
東京医療センター

東京医療センター看護部では，シリンジの取り扱いにおける不具合事例を模擬的に学ぶ体験型の医療安全研修を実施した．看護部の医療安全推進担当者が参加したT-PAS研修の内容と効果などについて紹介する．

医療安全推進担当者を対象とした体験型の安全研修を実施

2019年12月18日，東京医療センター看護部の医療安全推進担当者会議が開催された．この会議は定期的に月1回開催されており，看護部の医療安全に関する課題などが検討されている．

委員長の若林真紀子さん（看護師長）は,「毎月，医療安全管理部の責任者部会がインシデントレポートをもとに検証事例をまとめてくれるため，リスクがある場合は対策法などを一緒に考え，それらを各部署に持ち帰って周知しています」と言う．

会議ではこのようなタイムリーなインシデントの共有などに加え，年間の運営方針の決定や，その計画に沿って課題が解決されているかなどを確認している．

「2019年度はとくに，患者誤認防止に力を入れてきました」と若林さんは話す．

同センターではリストバンドの装着を患者確認として採用しているが，リストバンドの装着率が十分に確保されていないことも過去にあった．そのため，患者誤認防止に対するスタッフの意識向上，フルネーム確認ができる医療安全文化の醸成を目的に活動してきたという．

この日は，医療安全推進担当者会議ののち，予測・予防型の体験学習である「T-PAS研修」も開催された．

T-PAS研修とは，テルモの医療機器使用時に発生するアクシデントを防ぐために，添付文書に記載された注意事項のうち，発生する頻度や危険度が高いものを模擬的に体験して理解する教育プログラムである．

若林さんは,「実際に医療機器を使ってみる体験型研修だと聞いたので非常に興味深く，正しい使用方法をより理解できると思い開催しました」と言う．

シリンジにひそむさまざまなリスクを体験

この日のT-PAS研修に参加した医療安全推進担当者は24名．

看護師が日常的に使用するシリンジについて，材質の特性によるリスクを体験するとともに，三方活栓との適切な接続方法を学んだ．

参加者からは,「実際にシリンジを破損してみたことがなかったので，正しく使用しないと薬液などが漏れたり空気が混入するというリスクを実感することがで

看護部医療安全推進担当者委員長の若林真紀子さん（看護師長）．「新人看護師を指導する立場の中堅看護師が体験型研修を受けること，参加者の五感に訴えることの重要性を改めて理解することができました」

医療安全管理部医療安全管理者の福元大介さん（看護師長・感染管理認定看護師）．「失敗を体験することでリスクを実感することは，理屈ではなく身をもって覚えることができます．医療安全文化醸成のためにも有意義です」

●東京医療センターで開催されたT-PAS研修

きた」「講義よりも楽しく，失敗を体験することで理解が深まると感じた」「体験したことを部署に持ち帰り伝えることで，他のスタッフにも伝達しやすいと思う」といった感想が多く聞かれた．

若林さんも，「今回は医療安全推進担当者という中堅の看護師が対象でしたが，新人看護師などを指導する立場の看護師が改めて体験することは重要だと思います．私自身もシリンジに実際に触ってみて，体験することの大切さ，五感に訴えることの重要性をより理解することができました」と言う．

医療安全管理部医療安全管理者の福元大介さん（看護師長・感染管理認定看護師）は，「理論や根拠を講義されるだけでなく実際に体験することでリスクが実感できるので効果的だと感じました．子どもがヤカンに触って熱い思いをして二度と触らなくなるように，一度失敗したことは記憶に残ります．体験型研修を受けたスタッフは危ないことが直感的にわかるはずなので．来年度の研修にどんどん取り入れていきたいと思います」と話した．

医療安全行動や感染対策は遵守しなければならないことばかりが講義で話され，“やらされている”という負のイメージがスタッフに植えつけられて負担感ばかりが増してしまう，と福元さんはいう．その点，体験型研修は楽しく参加できるうえ直感で認識できるので効果的だ．

T-PAS研修後には，テルモが制作したDVD『みんなで考えよう医療事故防止対策――ルールを守って安全確認』（約60分）の一部も観賞された．

このDVDは，日本医療機能評価機構の「医療安全情報」に掲載されている事例などを再現したドラマ（基本シーン）と，事例のポイントについての説明（解説シーン）で構成されている．

T-PAS研修後に観賞した事例は，「シリンジポンプ・輸液ポンプに関連した事例」の1コンテンツだったが，このほかにもインスリン投与や輸液ライン，患者誤認に関連した事例なども収載されている．

福元さんは，「事例の設定も具体的なので，院内の研修プログラムに組み込んで使用することができると思いました」と話した．

医療安全文化の醸成が今後の課題

今後の課題について若林さんは，「外来

根拠に基づいた安全で確実な看護を提供するために 熟練された基本技術と誠実で細やかな気配りのある対応を

看護部長
杉崎けい子さん

地域医療を担う医療機関の評価として「医療安全」は最も重要な指標の１つと考えています．当センターは病院内組織として，病院長･副院長の下に医療安全管理部を設置し，医療安全管理委員会，医療安全責任者部会，医療安全推進担当者会議等を通じて，医療安全に関するさまざまな課題解決や予防対策等を検討しています．多職種で構成されたグループで，年間を通じて１つの医療安全に関する課題に取り組み成果を上げている活動もあります．

医療機関の基本的な使命は，患者さんの利益を守り，患者さんにプラスになる医療を提供することと考えています．高度な医療を行っても事故が起きてしまっては信頼されません．安全を守りつつ，質の高い医療を提供し患者さんに満足していただけるよう，医療安全に取り組む必要があります．

熟練した基本的技術を丁寧に実践すること

日常の看護業務のなかには，基本的な技術であっても重大なリスクにつながる行為が多いと思います．たとえば，患者さんの確認を少し怠っただけで，患者誤認や誤薬など重大な事故につながってしまいます．

新人の技術研修では集合教育のあと，OJTでマニュアルに沿った丁寧な指導を受けていても，しばらくして慣れてくると，マニュアルを参照する機会が少なくなり，先輩の技術がお手本となっていきます．そのとき，先輩看護師が確認行為を簡略化していると，新人看護師にも同様の技術が定着してしまいます．そして，それが職場のスタンダードな技術となり，リスクの高い職場になってしまうことを懸念しています．

私は，基礎教育で学んだ基本技術を手を抜かず丁寧に実施すること，技術を磨き熟練した基本技術を提供することが職業人に求められているということを，「老舗の料理店」を例に話すことがあります．創業〇〇年と長く続いているお店は，化学調味料などを使う簡略化した料理方法ではなく，創業当時と同様に厳選された食材と調理法を，手を抜かず丁寧に受け継ぎ調理しているからこそ，お客様が求める味を長年提供できていると思うからです．

看護の基本技術も同様で，誰が実施しても工程を省かず確実に実施すれば安全に提供できる技術であり，繰り返し丁寧に実施していくことで熟練されたスマートな技術を提供できると思っています．

国立病院機構の理念に「患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供すること」があります．当院の看護師には，知識に裏付けられた安全な技術を，細やかな気配りのもと誠実に提供できる医療人であってほしいと思っています．

効果的な医療機器メーカーの体験型研修

急性期病院では，医療の高度化･複雑化に伴い，どうしても看護師の業務が煩雑となり多忙になりがちです．そのなかで，熟練した基本技術を患者さんに提供するためには，継続教育と定期的な技術チェックを行い，自分の技術を維持･向上させる努力が必要です．看護技術教育はもとより，医療機器の適正使用方法などについては，体系的な教育プログラムを確立している医療機器メーカーとコラボした体験型研修を実施することで，より効果的な教育ができると実感しています．

看護部の自前のプログラムにとらわれず，医療機器メーカーの協力を得ることで，当センター内での技術の標準化だけではなく，全国レベルの技術の標準化を意識した教育が可能となり，有効な教育プログラムだと思います．

や病棟ではさまざまな医療機器が使用されていますが，看護師はそれらのリスクを理解して正しく使用することで患者さんの安全を守らなくてはいけません．そのためには積極的に体験型研修を実施していきたいと思います」と言う．

福元さんは，「当院は多職種連携で医療安全活動を推進していますが，すべての部署・職員に医療安全文化が根づいているかといえばまだまだです．１人１人のスタッフが患者さんの立場に立って，主体的に医療安全行動ができるようにならなければと思います．それは一時的なアウトカムではなく，永遠に継続されるものでなければ患者さんに安全・安心な医療を提供できません．それが医療安全文化の醸成だと思います」と話した．

◆

今回，東京医療センターが実施したT-PAS研修を提供するテルモでは，輸液投与の安全性に配慮した「スマートインフュージョンシステム」や，クローズド輸液システム「シュアプラグADシリーズ」，がん化学療法で用いる閉鎖式薬物移送システム「ケモセーフロック」など，さまざまなシステムを提供している．